

# 千里ニュータウンの価値と魅力を共有するための活動～「千里グッズの会」による地域情報共有メディアの制作等による住まわれた歴史の継承

メンバー：鈴木 毅（代表・近畿大学）、太田博一（副代表・株式会社太田博一建築・都市デザイン）、田中康裕（幹事・ハネウェル居場所ハウス）、松原茂樹（幹事・大阪大学）

※現在4名が中心的に活動しているが、絵葉書のアイデアや制作・販売についてはグッズの会のメンバーでもある、宮本京子、赤井直、加福共之、奥居武、山本茂、木多道宏、柱健太郎、下渡純司、立川弥生子、尹俊到、福岡正輝、吉田久芳の各氏（元メンバー含む）の貢献が大きい。

## 1. 千里グッズの会とこれまでの活動概要

働く場がない、盛り場がない、宗教施設がない、ニュータウンにないことが指摘され、計画上の問題として批判されるものは多いが、ささやかだが街の魅力を支援する無視できない存在である絵葉書等のまちづくりグッズの重要性があまり指摘されてこなかった。

上記のような問題意識の元に、千里ニュータウン住民、町づくり専門家、大阪大学の教員・学生が中心になって、2002年7月千里ニュータウンのお土産・グッズをつくる目的で「千里グッズの会」を発足させた。「魅力ある街には魅力的な絵はがきがある」という意見・コンセプトから、千里の美しい風景や歴史、千里の研究を元に絵葉書を制作し販売する「千里の絵はがきプロジェクト」を開始した。さらに2005年以降、急速な建て替えと新住民の移入により千里ニュータウンは大きく変貌を遂げている。そこで千里グッズの会では2011年より豊中市の協働事業で新しい活動を始めた。それが「ディスカバー千里」である。「ディスカバー千里」では千里の住民や来訪者に千里ニュータウンの魅力を「発見」してもらえるよう、生活情報や歴史を収集・編集・発信する活動を通して、住民にとっては「当たり前」のものとして経験してきた暮らしが、次の世代へと継承する価値がある歴史になるという意識を住民と共有し、今後のまちづくりに活かしていくことを目的にしている。「ディスカバー千里」には大きく「暮らしの歴史アーカイブ事業」と「ウェルカムパック」2つの活動があり、そのパックボーンとして文献・資料の収集も行っている。また、魅力を伝える媒体として「千里ニュータウンウォーク・ガイド」「千里ニュータウン計画」の思想を巡る-の発行や2011年度より実験的に「大きな本プロジェクト」も実施した。これらの活動を通して、2011年以降各種団体に絵葉書の元になった写真の提供、町歩きの主催・協力、イベントの企画協力や住民参加のワークショップなどの活動にも発展・展開している。

以降では各プロジェクトを紹介する。

これまでの千里グッズの会の主な活動履歴を表にまとめる。

### ● 2002年

0726 新千里東町の「ひがしまち街角広場」にて第1回目の会合を行う  
1130 第1回千里NTまちづくり市民フォーラムで絵葉書展示  
1216 「ひがしまち街角広場」にて絵葉書の展示を開始。

### ● 2003年

0301 「ひがしまち街角広場」にて絵葉書の販売を開始。  
『千里』2003年03月01日号で千里グッズの会の活動が紹介される。  
1004-05 「ひがしまち街角広場」2周年記念イベントにて活動を報告。  
10 売上と内容を考慮し絵葉書8種を製版印刷（セット第一弾）。

### ● 2004年～2010年

年に2～5回、千里NT内でのイベント時に販売。「ひがしまち街角広場」では常時販売

### ● 2011年

0109 朝日新聞社説「万博公園冬景色」で千里グッズの会が紹介される

0226 第9回千里NTまちづくり市民フォーラムで絵葉書販売

0401 豊中市の協働事業市民提案制度を活用したプロジェクト「ディスカバー千里」をスタート。

1021-23 第4回コラボまつりで絵葉書を展示・販売ならびにウェルカムパックの表紙デザインの人気投票の実施

1106 年賀状プロジェクトとして絵葉書4種類セットを印刷

1203 第3回好きやねん新千里西町ふれあいフェアで絵葉書展示販売

1211 新千里東町近隣センターで開催の商店会フェアで絵葉書展示販売

### ● 2012年

0212 新千里東町で行われた「第1回まち歩き」（主催：新千里東町地域自治準備委員会）にて、「大きな本」で新千里東町を紹介。

0315 千里分文化センター「コラボ市民実行委員会」主催の「千里まちあるき＆焼き芋」にて、「大きな本」を用いて新千里東町を紹介。

0415 千里東町で開催された「たけのこ祭り」にて、絵葉書を展示・販売。「大きな本」で新千里東町を紹介。

0611 千里文化センター「コラボ」内の新千里出張所にて、新規入居者に対する千里ウェルカムパックの配布を開始。

07『わたしたちの千里NT』（発行：吹田市・豊中市千里NT連絡会議）に千里の絵葉書の写真を提供。

09 千里NT情報館の展示パネルに千里の絵葉書の写真を提供。

10 吹田市立博物館・特別展「NT半世紀展-千里発・DREAM-」のポスター・図録などに千里の絵葉書の写真を提供。

1007 「ひがしまち街角広場」11周年記念行事にて、「大きな本」の展示。千里の絵葉書も販売。

1015 『千里NTウォーク・ガイド-「千里NT計画」の思想を巡る-』を発行。

1026-28 千里文化センター・コラボで開催の「第5回コラボまつり」にてディスカバー千里の活動を紹介。

1026 「第5回コラボまつり」にて、「大きな本」を用いて楽しい街にするためのアイディアに関するワークショップを開催。

1027 「第5回コラボまつり」で小学生を対象とするワークショップ「千里まめ記者探検隊」にて、「大きな本」を用いて千里NTを紹介。

1102 『読売新聞』記事「昭和の幸せ描く若者」に「大きな本」のことが掲載。

1110 「大きな本」による新千里東町ツアーを開催。

1118 東丘ダディーズクラブ主催の「いにしえ街歩き東町昔遊びツア 第二弾」に参加・協力。「大きな本」を使って紹介する。

### ● 2013年

0130 「キャンドルナイト@コラボカフェ」にて、ディスカバー千里で収集して作成したスライド「思い出の千里ニュータウン」を上映。

0405-06 千里文化センター・コラボの「コラボカフェ」3周年イベントにあわせて、8冊の「大きな本」を2階多目的ホールに展示。

0409 千里文化センター市民実行委員会主催の「東町+北町まちあるき」にて、「大きな本」を使って千里ニュータウンの紹介を行う。

0510 「第2回キャンドルナイト@コラボカフェ」（主催：千里文化センター市民実行委員会・豊中市）の会場に「大きな本」を展示。

0806 千里文化センター・コラボ、2階の多目的スペースで開催された「千里ニュータウン 51年目のまちづくりを考えるワークショップ」（主催：吹田市・豊中市）で「大きな本」を利用して、今後の千里ニュータウンについての意見を収集。

0813 『千里ニュータウンウォーク・ガイド-「千里ニュータウン計画」の思想を巡る-』を増刷。

0910-1020 千里NT情報館・企画展「51年目のまちづくり～千里NTで今、始まっていること～」の運営・協力。「大きな本」などの展示。

### ● 2014年

0228-0302 千里文化センター・コラボで、ディスカバー千里展示報告会を開催。

## 2. 「千里の絵はがきプロジェクト」

Web: <http://senri.xii.jp/newtown-sketch/> goods/postcards

これまで千里ニュータウンでも、千里中央地区が誕生した 1970 年の「千里ニュータウンの絵はがき」など数回絵葉書が制作されている。ただし、これらは開発者としての視点が強く竣工写真に近い図柄が多く、またイベント後に継続的に配布・販売されることではなく現在入手することは難しい。

これらに対して、本プロジェクトの絵葉書は以下の点を目指して制作している点が特徴的である。

- 1) 居住者/専門家の両方の視点から千里の多様な魅力を表現する
- 2) 風景だけでなく日常の情景、分析図等、様々な種類を制作する
- 3) 街の魅力を伝えるコミュニケーションツール（記念品でない）
- 4) 日常使用する文房具と位置づける（作家性や土産物を強調しない）

### 制作プロセス・種類

当初 8 種を選び製版印刷を行った（図 1）。それぞれ、近代的な住宅都市である千里ニュータウンらしい風景（a, b）、建設時と約 40 年後の現在を対比したもの（c）、木々が育ち成熟した街の日常風景（d）、ひがしまち街角広場に高齢者や子どもが集う日常風景（e, f）、千里ニュータウンの中心にあるニュータウン除外地、江戸時代の新田集落である上新田の秋祭りの神輿のルートである（2003 年セット、各 1000 枚、合計 8000 枚印刷）。

その後、絵葉書の種類は増え続け、現在全部で 1163 種類の絵葉書を準備している。2010 年以降には新たに 16 種類を選び、各 400 枚、合計 6400 枚を製版印刷した。

### 絵葉書の販売

2003 年 3 月より、ひがしまち街角広場で絵葉書の販売を開始した（1 枚 50 円）。最初の 6 か月で 1000 枚以上を販売している。

2008 年からは、ブログ「ニュータウンスケッチ」において製版した絵葉書の全見本を掲載し、撮影年や撮影場所などの情報を提供している（図 2）。

### イベントでの展示販売

ひがしまち街角広場での店頭販売や注文による制作販売の他に、「千里ニュータウンまちづくり市民フォーラム」「豊中市千里文化センター・コラボ祭り」「ひがしまち街角広場〇周年記念イベント」「新千里東町および西町イベント」など、地域で定期的・不定期に開催されるイベントにおいて、絵葉書の展示と店頭販売を継続してきた。2010 年秋以降のイベントでの販売実績は 32 枚 1600 円、42 枚 2100 円、119 枚 5950 円、52 枚 2600 円と毎回数十枚の売り上げがある。

### 効果

#### 1) 住民相互のコミュニケーション・知識共有の媒体

絵葉書の購入の動機・使い方を聞くと離れて住む子どもや元隣人、孫や自分の思い出のためなど、空間・時間で隔てたコミュニケーションの媒体として利用されていた。

#### 2) 住民にとって愛着がある風景の指標

どのような絵葉書を制作し製版印刷をするかに際してのアンケートの結果、また何より各絵葉書の販売状況は、どの風景に住民が愛着をもっているかの反映であり、何が千里ニュータウンの地域資源であるかに関する貴重なデータ・指標そのものであった。

#### 3) 変貌するニュータウンの記録

特に 3) では、集合住宅の建て替え、再開発が急ピッチで進んでいる。

景観は日々刻々と変化しており、計画の単位が大きいためその変貌はドラマチックである。最初にセット印刷した 8 種の内、半分は既に失われた風景である。千里中央の千里センタービル（槇文彦設計）をはじめとして、既に我々の絵葉書の中にしかない建物や風景も少なくない。魅力的・特徴的な風景だということで絵葉書のために撮影した写真が、今や貴重な街の記録になっているのである。



a. 新千里東町を望む



b. 千里南公園



c. 千里ニュータウンの昔と今



d. All Children have Places to Play



e. 街角広場の夕暮れ



f. アーンしてごらん。ハイ、氷



g. こぼれび通り



h. 上新田秋祭り



図 1 最初に製版印刷した 8 種の絵葉書とロゴマーク



i. EXPO70 象の行進



j. 南地区センタービル

k. 上新田竹林の道

図 2 最近人気の絵葉書

### 3. ディスカバー千里(Discover Senri)

Web : <http://discover-senri.jimdo.com/>

2011年からスタートした「千里グッズの会」と豊中市の協働事業である。ディスカバー (Discover) とは「発見する」の意味。千里にお住まいの方に、あるいは、千里を訪れる方に、千里の魅力を発見してもらえるよう、生活情報や街の歴史を収集、発信している。

#### 3.1 暮らしの歴史アーカイブ事業

Web : <http://discover-senri.jimdo.com/> 思い出募集中/

街にまつわる思い出をお聞きすることを通して、みんなで千里ニュータウンの歴史を振り返るために機会をもうけるためのプロジェクトを進めている。千里ニュータウンに住む住民に直接インタビューするだけでなく、ホームページでも思い出を募集をしている。ホームページでは現在も千里ニュータウンに住んでいる人だけでなく、転勤族が多いニュータウンの特徴を踏まえて「千里のOB/OGのみなさまへ」という項目を設けている(図3)。これまで寄せられた思い出の一部を表1に紹介する。また思い出だけでなく住民から千里ニュータウンに関わる写真も提供を受けている。なお、この成果の一部は以下の論文としてまとめている。

栗本絢子・鈴木毅・松原茂樹・奥俊信、千里ニュータウン新千里東町における暮らしの記憶と住環境の経年変化に関する研究、平成24 年度日本建築学会 近畿支部研究発表報告集、273-276, 2012. 6

小松莉果・鈴木毅・松原茂樹・奥俊信、計画集合住宅地での子どもの遊び場と行動パターンに関する研究 一千里ニュータウン・新千里東町を事例として一、平成24 年度日本建築学会 近畿支部研究発表報告集、269-272, 2012. 6



図3 ホームページ「千里のOB/OGのみなさまへ」

### 3.2 ウエルカムパック

Web : <http://discover-senri.jimdo.com/> ウエルカムパック/

千里ニュータウンでは、集合住宅の建て替えが進むにつれて年々新しい住民の方たちが増えています。また、千里ニュータウン

の都市計画やまちづくり、住民活動を見学に訪れる方たちも多くなりました。このような新住民の方たちや訪問者の方たちのために、千里の生活情報やまちを知り、楽しむための情報を集めたものが千里ウェルカムパックです(図4)。パックの中味は商店街

表1 千里ニュータウンの思い出の一例

幼少から大学に入学前まで北町に在住でした。当時の町は子供が溢っていました、あちらこちらに親分肌の子供がいました。また大人も良識あって元気で、悪いことをすると近所のカミナリ親父のおじさんに叱られたものです。… (中略) …当時の千里ニュータウンは少年野球が盛んで、私も4年生~少年野球チームに属していました。千里ニュータウン大会だけでなく、北丘大会というのもありました。中学校に上がる前にきっちり礼儀を教えられたのでそれが今も私の中に生きています。人数が多くて子供にしっかりと教育できた。大人が大人であるモラルを守れた。だから地域で子供を見守っていくそんな教育いい連鎖があったのではないでしょうか? 北丘小学校が1800人近く児童がいました。そん中ですから子供達も個性たっぷりに育ったと思います。いま、妹夫婦が在住しておりますが、入学生は1クラス~2クラスだと聞きます。寂しい限りですね。しかしながら今も街並みを眺めに訪れるとき、あの曲がり角やあの公園が残っていると凄く懐かしく、私の故郷だと感動します。(ホームページより)

(新千里北町にお住まいだった男性より寄せられた思い出)

新千里東町から千里中央にかけて広がる大きな竹藪でよくかけっこや鬼ごっこをした。(2011年10月21日~23日 第4回コラボ祭にて)

(緑丘・32歳・女性)

大阪大和銀行で土地抽選(12倍)が当たった。新聞に当選番号が載った。今、南千里から見学のバスで確認のために現地へ。東町の方を見ると家一軒建っていない、木一本ない。えらいところへ来たねと思った。(2011年10月21日~23日 第4回コラボ祭にて)

(新千里北町・昭和42年入居・78歳・男性)

※すべてホームページ上で公開



図4 ウエルカムパックの表紙(上)と裏面(下)

や民間企業、住民グループ、NPO、行政などから提供していただいたパンフレットやマップです。ウェルカムパックの作成には、商店街や企業などからパンフレットなどを提供していただくとともに、入れ物の透明ファイルは、プロジェクトに賛同していただいた商店街や企業からの協賛金で購入しています。2014年3月時点での配布物を表2に示す。

一年に3千世帯が豊中市エリアの千里ニュータウンに引っ越している。その方たちを対象に千里文化センター内の豊中市出張所に手続きを行いに来たときに市役所職員から新住民に手渡してもらっている。

表2 ウェルカムパック内容物(2014年3月時点)

○市民／任意団体の紹介 赤ちゃんからのESDとよなか 豊中市千里文化センター市民実行委員会活動紹介 千里グッズの会 ○公的機関・企業の紹介 千里文化センター 千里老人福祉センター	阪急バスICカード紹介 ○文化講座・施設 よみうり文化センター FM SENRI TIME TABLE ○地図 せんちゅうバルのフロアガイド 千里中央センター地区ご案内図 千里ニュータウンマップ2013
---	--

#### 4. その他の活動

##### 4.1 「大きな本」プロジェクト

Web:<http://senri.xii.jp/newtown-sketch/blog/20121108/220054>

ニュータウンの歴史を「大きな本」に詰め込んで、さまざまな場所で展示し、歴史などを共有していくとするプロジェクト。さまざまな世代が同時に見ることができる「大きな本」をきっかけに当時の記憶を思い出したり、なにげに過ごしているところにも発見があったりします。また町歩きを通して各場所の計画や生活の歴史を知ることができます。2011年に試行的に1冊製作し、2011年には3回イベントで展示した。2012年には6冊製作し、イベント5回展示し、2013年には10回近く展示した。また町歩きと連動して(たとえば2012年10月26日大きな本 新千里東町ツアーオー1にて千里中央及び新千里東町内の各所で展示)、場所に相応しい「大きな本」を展示し、町歩きしながら千里ニュータウンのことを学習する機会を提供した(図5～6)。これまでに製作した大きな本を図7に示す。



図5 子どもたちとの町歩き：持ち運んで場所ごとに解説



図6 千里文化センターでの全作品展示

##### 4.2 千里ニュータウンウォーク・ガイド-「千里ニュータウン計画」の思想を巡る-

Web:<http://senri.xii.jp/newtown-sketch/blog/20121011/220036>

2012年10月に製作した。千里ニュータウンは多くの行政関係者、専門家が総力をあげて取り組み、新しい理論による提案に基づいて建設された先進的・総合的な「実験都市」でもあった。まちびらき50年の節目を迎える、千里がどのような思想に基づいて計画されたのかを振り返り、何を継承し、何を変えていくべきかを考える作業が求められている。このガイドブックでは、千里ニュータウン計画の思想に触れることができる3つのコースを紹介しています。これらのコースを歩くことで、千里ニュータウンを振り返

るとともに新住民には千里ニュータウンの成り立ちを学習する機会を目的としています。内容は、近隣住区論、住区・分区、学校システム、クルドサック、開発に関する法律、開発主体などニュータウンで取り入れられた計画手法を解説し、それらを踏まえた上で各コースのみどころを紹介している(表3、図8～10)。

販売は「ひがしまち街角広場」にて300円で常時行っているが、イベントなどの出張販売、行政の視察訪問時の販売も行っている。

表3 ガイドブックの目次

千里ニュータウンへのアクセス
千里ニュータウン計画の思想
南千里コース・マップ
南千里コース・みどころ
北千里コース・マップ
北千里コース・みどころ
千里中央コース・マップ
千里中央コース・みどころ ※各見開き



図8 表紙



図9 コース・マップの説明



図10 計画理論の紹介

##### 4.3 千里まち歩きガイドツアー

Web : <http://senri-center.jimdo.com/>千里まち歩きガイドツアー/

千里グッズの会の主催、豊中市千里文化センター市民実行委員会やダディーズなどの行政や民間団体からの依頼により随時行っている(Webから申し込みなど)。ツアー内容は参加者の要望によるがこれまで以下の内容で行った。

- ・まちびらき初期に開発された特徴的な団地を巡るコース
- ・歩車分離、クルドサックなど開発時に導入された先進的な道路システムを巡るコース
- ・マンションの建替えをはじめとする再開発エリアを巡るコース
- ・親子(乳幼児)を対象にしたベビーカーでも楽しめるコース
- ・小学生を対象にした町の歴史紹介と親世代の遊び場所・遊び方の伝承ツアー

##### 4.4 ワークショップ

2011年以降「絵葉書」「暮らしのアーカイブ」による思い出・写真や「大きな本」などの媒体を用いて今後千里ニュータウンに必要なものや今後のまちづくりに関して住民参加のワークショップを年に数回実施している。

##### 4.5 イベント企画・協力

「絵葉書」「暮らしのアーカイブ」「大きな本」などの媒体を展示する活動に企画・協力している。たとえば2013年には吹田市の千里ニュータウン情報館で1周年企画として「51年目のまちづくり～千里ニュータウンで今、始まっていること～」の協力を行った。

##### 4.6 ホームページ

千里グッズの会ではホームページを立ち上げて常に情報発信を行っている。